第７回校内研究全体会
「児童が『主語』になる学習を可能とする授業」
講師　日本新たな学び方研究開発ネットワーク会長　西留安雄先生

日時　令和５年１１月１５日（水）14:10-15:45

１　自己紹介を兼ねて

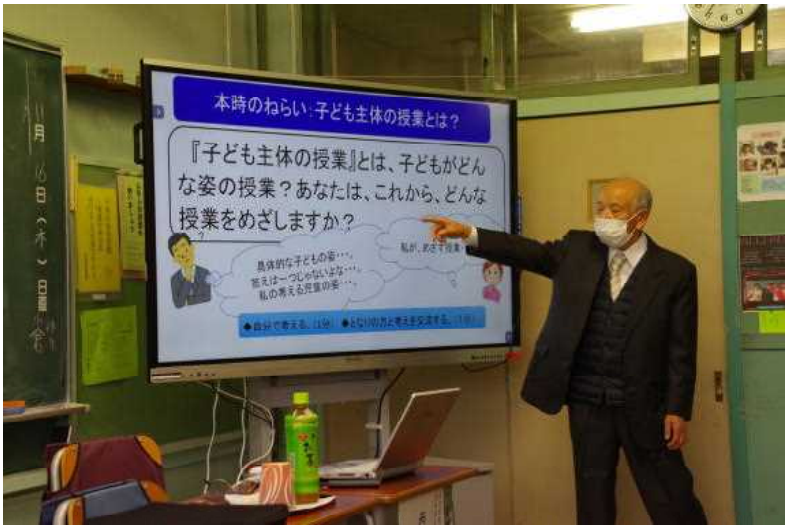
○根本的な改革を進めないと、この忙しさが解決されない。
○会議をしないでもいい学校に改革
○教育委員会改革も行なった。
○授業改善と校務改革は両輪。両方を同時に改革しなければならない。
○全員で集まることはない校内研究会。５、６人のチームで小回りのきく研究体制。
○放課後、子供と一緒にいられる時間、教材研究ができる時間をどう作るか。会議をとるか、子供の指導をとるか？　子供の側を選びたい。
○教師１人が授業が上手になってもダメ　担任が変わってもできる子供達にならないと

２　児童が「主語」になる学習スタイル　＝　問題解決学習の構造

○算数なら
「課題（めあて）」　疑問形がいい
「問い」
「気づき」
「見通し」
「自力解決」　あまり長くやらせない、むしろ
「学びあい（考察）」友達と協働
「まとめ」　課題とまとめは対になっている
「振り返り」

○国語なら
「課題」
「見通し」　学習内容、学習方法（気付いたところに二重線を引く、など）、アイテム（キーワード、教科用語）を押さえてから。子ども主体型は、全員の意見を出させること。わからない子も参加させる。
「自力解決」
「学び合い」友達と協働学習
「まとめ」
「振り返り」

○「子供主体の授業」とは、
　子供がどんな姿の授業？
　どんな授業を目指すか？
　《視点は三つ》
　・動いているか
　・考えているか
　・楽しそうにしているか
　教科は関係ない
　発達段階も関係ない

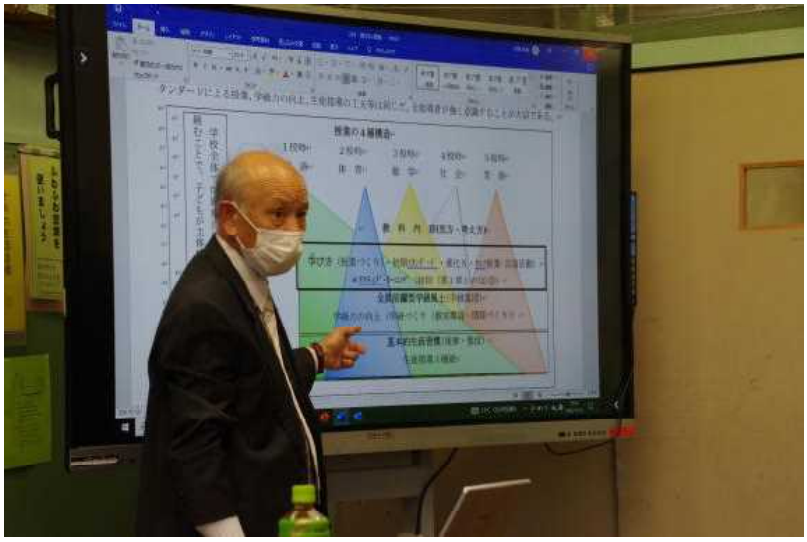


○授業の進め方（の型を覚えて、次の段階を目指す）
○学習リーダーが進める授業　　前の日に先生と打ち合わせ　１年生も１学期からリーダーをやる
○自力解決　式と答えだけでなく、自分の考えを書く
　わからない子は聞きに行く、教えに行く　（これが学校！）
　「ぶらぶらタイム」　立ち歩くのを認める（最低５回は立つ）
○グループ学習　１人、２人、３人…　グループ
○学びの道具（ホワイトボード、付箋など）をフル活動
　・気付いた人手をあげて、ではなく、みんなが付箋に書いて貼りに行く

・越知ゼミ方式　少人数４～６人グループでの学び合い　ここでまとめまでいく
○考察・まとめ　一斉でやっていたが、今はグループで完結できるようになっている
　オランダ　イエナプラン　（子供が自分たちだけで学ぶ）
　最終的には「セルフ授業」
　研究協議で話し合うことよりも、児童による授業参観などで気づかせる
　全校授業づくり集会

○セルフ授業までの道のり
　異学年交流学び合い　同一学年同一指導を続けてきたが、異学年の学び合いも大事にしたい
　ICT の活用
実際の授業の映像を見て
・全員が参加している
・全員が話している
　　世界では、黒板さえなくなりつつある

《グループ協議》
・技能系の教科ではどうか？
　→ 基本は同じだが、活動が多くなる



・授業の４層構造
基本的生活習慣
全員活動型学級風土
学び方（授業づくり）
教科の内容（見方・考え方）

・共有の仕方　ICT かホワイトボードか？
→ 大事なことは、全員が参加していること　今のところ、ホワイトボードの方が話し合いはしやすい。（タブレットは）記録として残る利点がある。

・問題解決学習の学習過程を身につけさせるのには？　→　２年くらいかかるか？

＊次回（１１月２９日）は、今回の講義を受け研究授業を実施。